

産前産後ケアの充実について



はやし 昌子
 議員

質問 核家族化や地域のつながりの希薄化等により、祖父母等の支援を受けられず、相談相手もないために家庭や地域で孤立する妊産婦が増えている。そこで以下の点について伺う。

①本村での産前産後ケアの現状と課題
 ②メール配信による産前産後ケア情報提供「きずなメール」の導入は考えられないか

答弁 (保健福祉部長) ①産

前の1点目、妊娠届出時に全妊婦に対し、保健師や助産師が面接し、村各課でのサービスを一括情報提供、そして、対象者の状況を把握する。2点目、妊婦健康診査費用助成。3点目、マタニティ教室の実施。4点目、子育て支援センターで毎月一回育児相談。5点目、ハイリスク者等に対し随時訪問や電話等を行う。産後には、2カ月以内に保健師・助産師が家庭訪問、不安内容に応じた相談対応をしている。課題として、対象者個人の心身の状況に合った個別のかかわり、顔の見えるケアを実施していくことが必要。

答弁 (村長) ②健康増進課

できめ細かな対応はしているが、メールは今の若い方にとっては一番身近なツールだ

と思う。10分の10の補助は見逃す手はない。再確認をし、補助申請を検討したい。

少子化対策について

質問 未婚化・晩婚化は少子化対策の上からも大きな課題となつているが、

①本村での少子化対策の現状と課題
 ②結婚、妊娠、出産と健康についての学習を深めることが必要だが、本村での思春期教育は

答弁 (総務部長) ①美浦

カップリングパーティに補助金交付。また、結婚仲介者に仲介活動奨励金を支払っている。今後、結婚促進協議会において体験型導入を含め、より多くの結婚が達成できるようにパーティの内容や運営等協議を進めていきたい。

答弁 (保健福祉部長) ①子育て支援という形で行っている。

答弁 (教育次長) ②小学4

年生及び中学1、3年生は、保健の中で4時間授業を行う。家庭科では、中学2年生が幼稚園で保育実習を行う。また、性教育講演会を毎年開催し、中学生全生徒及び希望する保護者等が参加している。

答弁 (教育長) 子ども育児

体験を中学校でできないか、2年ほど前から家庭科の先生と話している。

質問 本村において、保健福

祉部と学校教育課連携による少子化対策の学習を取り入れられないか。

答弁 (村長) 今、命を軽く

扱うような傾向があり、子どもたちには命の大切さを学ぶ部分を重点的にやりたい。

